2020 12.21 vol.947

JA全農ウィークリー WEEKLY

4-5面 対談

全国農協青年組織協議会 会長 田中圭介氏 × 「全農の食の応援団」虹のコンキスタドール

（広報・調査部）

6-7面

「OFFICE DE YASAI」を展開する株式会社KOMPEITOインタビュー（広報・調査部）

「OFFICE DE YASAI」を展開する株式会社KOMPEITOの商品（6-7面）

東京の大田市場で開いた千葉県産秋冬野菜販売のプロモーション「出陣式」（8面）

食と農の魅力について対談する全国農協青年組織協議会の田中圭介会長と「全農の食の応援団」を務める「虹のコンキスタドール」の的場華鈴さん（左）と清水理子さん（4-5面）

2 「岡山県うまいくだもの共進会」入賞者表彰式開催（岡山県本部）

物流効率化に係る第2回検討会開催（米穀部）

3 全農グループ総務・人事関連講演会開催（総務人事部）

ベネッセと全農『ひよこクラブ』でおかゆパーティー提案（広報・調査部）

8 「旬鮮倶楽部」2021年度申し込み受け付け中（くらし支援事業部）

千葉県産秋冬野菜販売のプロモーション展開（千葉県本部）

JAタウンショップ紹介 小さなYAMAGATAマルシェ（JA全農山形）

『JA全農ウィークリー』のツイッターはこちらから

Web版JA全農ウィークリーはこちらから ▶▶▶▶▶▶▶

https://www.zennoh-weekly.jp/

Web限定 駐日イスラエル大使館経済担当公使が来訪（経営企画部）

News!

「岡山県うまいくだもの共進会」入賞者表彰式を開催

外観・食味・糖度などで審査 31点が入賞

岡山県本部

岡山県本部と岡山県、JA岡山中央会が運営する「岡山県うまいくだものづくり推進本部」は11月20日、吉備中央町で「シャインマスカット」（以下シャイン）、「マスカット・オブ・アレキサンドリア」（以下アレキ）の品質を競う「岡山県うまいくだもの共進会」の表彰式を開催しました。

この共進会は、生産意欲の高揚と生産技術の向上を図り、高品質果実の生産拡大を進めることを目的としています。令和2年度の共進会は7月から10月にわたって、計3回開催されました。出品数は186点となり、房型の良さや粒の大きさなどの外観や食味、糖度などを審査した結果、31点が入賞となりました。シャインは粒の大きさと強い甘さ、アレキは見事な外観と強い香りが評価され、岡山県のぶどう栽培技術の高さが感じられました。

シャインの部で農林水産大臣賞を受賞された清原保さんは、「まさかこのような賞をいただけると思っておらず大変驚いた。今後は重さ1粒20グラム、糖度20度以上のダブル20を目標とし、さらなる品質向上を目指す」と喜びを語りました。

農林水産大臣賞を受賞した清原さんご夫婦

News!

物流効率化に係る第2回検討会開催

米の物流改善に向けたフレコンの統一化目指して

米穀部

全農は11月13日、玄米の推奨規格フレコンを活用した物流効率化実証に係る第2回検討会を開きました。

7月に続いて2回目となる今回の検討会では、全農物流㈱久喜営業倉庫で全農統一フレコン（推奨規格フレコン）の実際の保管・営業倉庫からの出庫、全農パールライス㈱埼玉精米工場で精米工場への搬入と張り込みまでの流れを現地視察しました。

米穀の保管・輸送・搬入などに係り、全農統一フレコンと紙袋、既存フレコンとの作業性を比較するデータを計測・集計した結果、紙袋と比較してフレコンに圧倒的作業優位性があることを確認しました。また、産地から消費地までの情報伝達の手段として、QRコード・RFID（ICタグに搭載された情報を、無線通信で認識する技術）による実証を行い、コスト面を踏まえて活用方法を検討していくこととしました。

今後さらに実証試験を重ね、来年2月の第3回検討会で取りまとめる予定です。

玄米の推奨規格フレコンを活用した物流効率化実証の第2回検討会

News!

全農グループ総務・人事関連講演会開催

人権問題などへの理解を深める

総務人事部

総務人事部は11月25日、「全農グループ総務・人事関連講演会」を東京・大手町の本所とTV回線を通じて各県本部などで開き、本所・県本部・子会社のライン長ら約260人が出席しました。

第1部の「反社会的勢力に対する対応研修会」では、安田忠孝常務理事があいさつした後、暴力団追放運動推進都民センターの坪野谷敏四郎氏をお迎えし、反社会的勢力への対応について話していただきました。

第2部の「人権・同和に関する講演会」では、野口栄代表理事専務のあいさつに続き、部落解放同盟中央執行副委員長の北口末広氏から、IT革命などの技術革新の中、部落差別を含む人権問題も多様化かつ巨大化している現状について講演いただきました。

出席者は、講演を通じて反社会的勢力への対応と人権問題への理解を深めることができました。

講演する北口末広氏

News!

ベネッセと全農『ひよこクラブ』でおかゆパーティーを提案

おかゆから始める離乳食の最初のひと口に着目

広報・調査部

全農は、妊娠期間中や出産後に購読されているベネッセコーポレーション発行の『ひよこクラブ』とタイアップして、「家族でおいしく！〝おかゆパーティー〟」をテーマにした記事を12月15日発売の『ひよこクラブ』（1・2月合併号）で掲載し、食の大切さや楽しさを伝えています。

全農は赤ちゃんの初めての離乳食に着目し、〝最初のひと口〟を祝う「おかゆパーティー」を提案し、子育て世代に向けてお米やごはん食に親しんでもらう機会として紹介します。

大人の食事と別で作ることが多い10倍がゆを家族みんなで食べることで、赤ちゃんがリラックスして離乳食のスタートに臨める事や、食べることの楽しさを離乳食の大事な目的として伝えています。赤ちゃんが家族と一緒に迎える最初のひと口もレポートしています。

全農は、今後も食の大切さやたのしさを伝えていきます。

「たまひよ」のホームページはこちら

12月15日発売の『ひよこクラブ』（1.2月合併号）

対談

全国農協青年組織協議会 会長 田中 圭介×「全農の食の応援団」虹のコンキスタドール

食と農の魅力を伝えたい

生産者の立場から、消費者の立場から

今年5月に全国農協青年組織協議会（JA全青協）会長に就任した田中圭介氏と、昨年10月に「全農の食の応援団」に就任した「虹のコンキスタドール」。食と農について伝えるミッションを持つお二方に、伝えることの大切さや、グループで力を合わせて目標に向かうことなどについて語り合っていただきました。【広報・調査部】

田中圭介会長 初めまして、全国農協青年組織協議会会長の田中圭介です。年齢は38歳、出身は福岡県久留米市でレタスを中心とした野菜を作っています。

虹のコンキスタドール（以下、虹コン） 私たち、虹のコンキスタドールです！的場華鈴です。清水理子です。よろしくお願いします。

的場さん 私たちは、2019年から「全農の食の応援団」として農業の魅力などを発信する活動をしています。「全農Presents 虹のコンキスタドール 届け！ファンファーム」というYouTubeの番組では、私たちが実際に農業や直売所でのお米の販売などいろいろな事に挑戦する様子を通して、「食と農」の魅力を皆さんに伝えています。

農業をやってみて、想像していた100倍大変でした。私たちはライブで激しいパフォーマンスをするグループなんですけど、田植えの次の日はみんな筋肉痛でした。

田中会長 僕らは市場やスーパーに出荷まではしますが、その後の部分、消費者の元に届いて食べてもらうところはなかなか直接見られないんですよ。虹コンさんも、お米を自分で販売して、買ってもらえた時うれしかったでしょ？

的場さん すごくうれしかったです！

本当に今回の活動は学ぶことがたくさんありすぎて。まずは、「食への感謝」が大きくなって、「いただきます」をかみしめるようになりました。

清水さん これからもいろいろと食について伝えていきたいなと思っています。

――虹コンのお二人は、SNSやいろいろな媒体で人に伝えるときに気を付けている事はありますか？

的場さん 割と作りすぎず、自分の言葉で発する事が何よりも伝わると思うので、あまり語彙（ごい）力とか気にせず、うまかったら「うまい！」と言っています。

JA全青協・田中圭介（たなかけいすけ）会長

1982年、福岡県田主丸町（現・久留米市）生まれ。福岡県JAにじ青年部、田主丸町4Hクラブ所属。2005年に大学卒業後、親元就農し、現在は野菜（リーフレタス、金時人参、エダマメなど）や水稲を栽培している。令和2年5月にJA全青協会長に就任。

清水さん あんまり長すぎず、凝りすぎず、簡潔な文章で、誰にでも分かるということを心掛けています。初めは、自分たちのファン層、割と大人の男性に分かるようにと思っていたんですけど、全農さんとの活動を始めてからは、小さな子どもからご年配の方にも分かるように文章を作って伝えられるようにしようと心掛けるようになりました。

的場さん 確かに、私たちを見てくださる方も「全農の食の応援団」になってから、だいぶ変わった気がしています。

――田中会長は今、全青協という5万5000人規模の大きなグループのトップですが、それをまとめることの苦労やリーダーシップについてお聞かせください。

田中会長 確かに約5万5000人いますが、土地が違えば育ちも違うし、作っている作物も違う。それを会長の力で統一するのは非常に難しいし、よくいう「トップダウン」というのは、やっぱり強制的になるんですよね。でも僕らの組織は「協同組合」、JAグループはお互い助け合う組織なので、ボトムアップですよね。それぞれの個性がどんどん集まってきて、僕のところに届いた時に、みんなの意見だからこうしようと決める。最後の一手は僕の仕事ですが、地域で活躍している人たちに声を上げてもらうことが一番大事かなと思います。だから、リーダーが何かするというより、小さいリーダーをどんどんつくっていきたい。

的場さん 今のお話で、すごく学ぶものがありました。それこそ、県のリーダーがいるっていうお話は、私たちのグループは、メンバー一人一人にファンの方がいるので、そういうメンバーの個性をできるだけ尊重するというか、引っ張り上げるっていうのも、リーダーの仕事なんだなって、今改めて思い直した感じがして。ありがとうございます。

清水さん 華鈴先輩は、本当に純粋なんです。華鈴先輩が言うなら間違いないって思えます。もちろん自分の意見もあるけど、華鈴先輩が向かっている方向は、虹コンにとってこれが絶対正しい形だという方向にちゃんと向かっているっていう信頼があるので、すごい安心してついていけます。

的場さん それができるのは、メンバーが同じ方向に向いてくれるからだよ！

田中会長 なんかいいですね（笑）。

――今後、虹コンが「全農の食の応援団」としてこんな活動をしていきたいという希望はありますか？

清水さん 私は和歌山県出身で、和歌山市の観光発信人をやらせていただいているので、地元のおいしい食材などをもっといろんな人に伝えていけたらいいなと思います。メンバー12人いる中で、地方出身の子もたくさんいるので、それをアピールできたらもっと活躍の場が広がるんじゃないかなと思っています。

的場さん 今日のお話を聞いて自分たちが発信していかなければならない事がさらに明確に見えた感じがしますし、今やっていることに＋αでこういうことを届けていきたいという思いも、少し頭に浮かんできました。

清水さん アイドルと農業はなかなか普通結び付くことがないと思っていました。でも、誰かを喜ばせたいとか、おいしいって言ってもらいたいとか、そういう目的や達成感は通じるものがあるなと思いました。私たちも農業の大切さをこれからももっといろんな人に伝えていきたいと改めて思いました。

田中会長 誰かを喜ばせるためっていうのは、確かにそうだなと僕も思いました。やっぱり誰かのため、人のためにという根本に僕も気づかされたし、今回とっても刺激になりました。僕らも「食」を通じて感動したり喜んでもらえることを、再度確認しながら農作業したいなと思います。お互いの分野で努力し合って、相まみえることがないアイドルと農業が、うまく近づいて違う形で感動を与えられたらいいなと思います。今日はありがとうございました。体調を崩さないように、おいしい国産農畜産物をいっぱい食べてください。

虹コン ありがとうございます！いっぱい食べます！

「虹のコンキスタドール」の的場華鈴さん（右）と清水理子さん

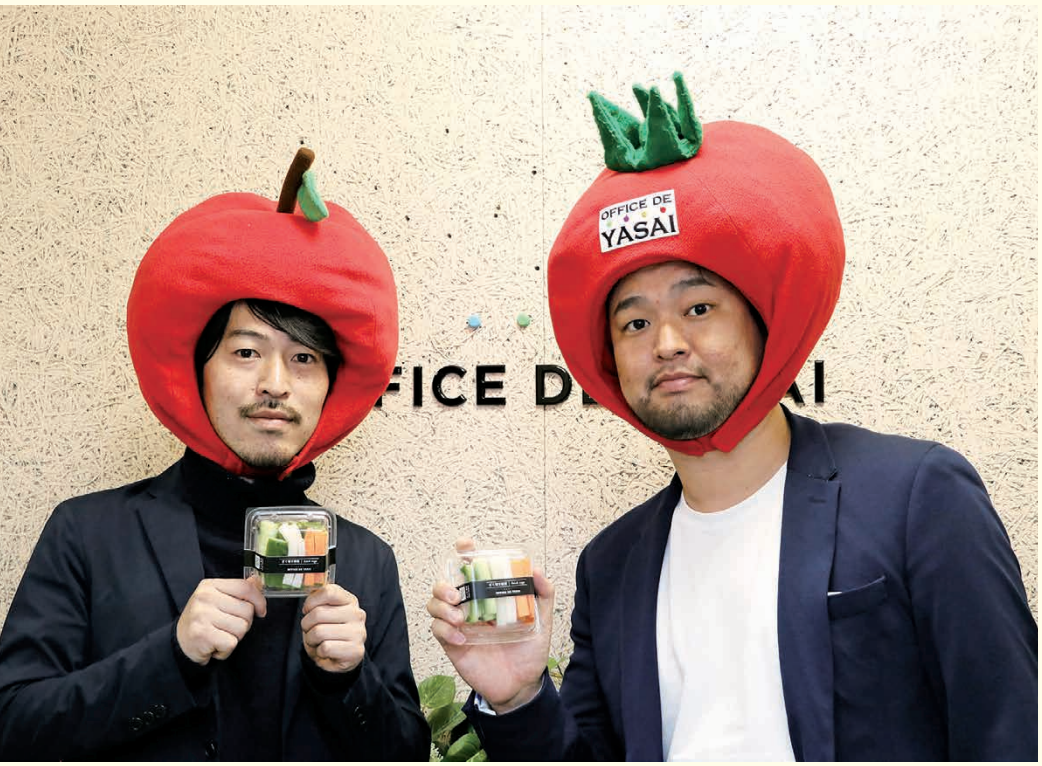
虹のコンキスタドール

メンバーは16～24歳の女性12人で構成。ファンである10～30代の若い層に国産農畜産物をPRすることを目的に、令和元年10月に「全農の食の応援団」に就任。今年7月から動画サイトYouTubeで番組「全農presents届け!ファンファーム」をスタート。虹コンメンバーが農作業や料理に挑戦する姿を通じて、食と農の魅力を発信している。

対談のフルバージョンはWeb版JA全農ウィークリーから

「OFFICE DE YASAI」を展開する株式会社KOMPEITOインタビュー

企業の社員に直接PRできるメディア事業展開



渡邉瞬代表取締役CEO（右）と山口諒マネージャー

「健康経営」という言葉をご存じでしょうか。企業が社員の健康増進を支援することで企業全体の生産性向上を目指す経営手法です。IT業界を中心に健康経営に取り組む企業に対するサービス「OFFICE DE YASAI（オフィスで野菜）」を展開する株式会社KOMPEITO（コンペイトウ）に新しい事業について、お話を聞きました。

【広報・調査部】

※全農は同社へ一部出資しています。

事業内容について

弊社は5年前から社員の健康を気遣う企業向けに「オフィスで野菜」を展開しています。企業には冷蔵庫を置かせていただき、週2回パワーサラダ（穀物や肉なども入った栄養バランスの良いサラダ）やカットフルーツなどをチルドで配達します。企業から一定の費用をいただくことで、社員の負担額を50～300円と低くする福利厚生の仕組みです。その他に「オフィスでごはん」という冷凍総菜事業も展開しています。現在までに全国40の都道府県で累計2000以上の企業に利用いただいています。

コロナ禍で企業のオフィス閉鎖

「オフィスで野菜」の冷蔵庫と商品

やリモートワーク推進の影響から、一時期は6割以上の企業からサービス停止依頼がありました。しかし緊急事態宣言解除後は以前にも増して新規の問い合わせが増え、以前の2倍以上の新規契約が続いています。

弊社の強みは物流です。チルド温度帯で企業に高頻度で納品するために、新聞や牛乳を配達する企業の物流網を利用させてもらっています。また、都心以外の地域ではオンライン面接で現地のアルバイトやパートを雇用して複数企業に配達してもらっています。

新規事業について

最近はリモートワークを推奨する企業から社員の自宅に直接スムージーを送るサブスクリプション方式のサービスを始めています。また、サラダを販売する自動販売機も始めました。現在秋葉原で実証実験中ですが、ダイナミック・プライシングという手法を取り入れており、賞味期限が近づくと遠隔操作で価格を下げ、食品ロスを避けるという仕組みです。今後、駅や空港に設置できないかと考えています。それと近年力を入れているのはメディア事業です。

新規事業のサラダスタンド（上）とタブレット端末を利用したデジタルサイネージ（右）、スムージー

オフィスで社員にPRできるメディア事業

企業に設置した冷蔵庫の上にはデジタルサイネージが置かれています。また、独自の電子決済アプリ「YASAI PAY」もあります。多くの企業に導入されていることから、その社員との接点も増えています。この接点をブランドPRの場として利用するのがメディア事業です。一例として、㈱ジェイエイてんどうフーズさまと「ラ・フランス」のPRに取り組みます。ジェイエイてんどうフーズさまから提供いただいた「ラ・フランス」をカットフルーツにして「オフィスで野菜」で販売しながら、デジタルサイネージや「YASAI PAY」でPRします。味を評価した社員が自宅でも「ラ・フランス」を楽しめるよう、「YASAI PAY」を介して購入できるようにします。既にJAタウンなどに出店しているJAであればJAタウンのサイトに誘導も可能です。この「プレミアムフルーツ」と題した取り組みは、JA青森さまと「葉とらずりんご」でも取り組めるよう準備中で、全国各地のブランドフルーツを毎月提供できるようにしていきたいと思います。

この企画はフルーツですが、加工品でも可能です。ジュースやお菓子など、オフィスで食べられる個食タイプの食品であれば冷蔵・ドライいずれでも取り扱い可能です。POPなどは弊社のデザインチームで作成します。

JAさまにとっては、コロナ禍で販促活動が難しい環境にあるとお聞きします。弊社の「オフィスで野菜」を多くの利用企業の社員を対象とした試食可能なメディアとして評価いただきご利用いただければ幸いです。

方法としてPR費用をいただいたり、現物でいただいたりいろいろな方法が可能です。カットフルーツにするので低等級品でも大丈夫です。また、訳あり品の有効活用やハネ品、規格外の野菜や果物・在庫処理に困っている加工品などのご提供先としてもご相談可能です。ご興味あればぜひお問い合わせください。

「ラ・フランス」のPRイメージ

お問い合わせ先

株式会社KOMPEITO
OFFICE DE MEDIA事業部
マネージャー 山口諒

TEL：070-5020-4724
Mail：ryo_yamaguchi@officedeyasai.jp

TODAY'S AGRI NEWS
JA全農提供FM番組（TOKYO FM／JFN38局）
毎週（月）～（金）6:30～6:35全国一斉生放送!
今朝の日本農業新聞の記事とJAの役員インタビューをお届けします!

「旬鮮倶楽部」2021年度申し込み受け付け中

人気品種や珍しい品種ピックアップ 季節ごとに楽しめるスイーツ特集も

くらし支援事業部は、全国各地の旬の果実を中心に、毎月ご家庭まで産地直送でお届けする頒布会事業「旬鮮倶楽部」に取り組んでいます。
【くらし支援事業部】

2021年度は新企画として、人気品種や珍しい品種をピックアップしたミカンやリンゴの青果物特集、季節ごとに楽しめるスイーツ特集を用意しています。母の日やクリスマス、お中元といった歳時企画もあり、贈答用としてもご利用いただけます。

遠出や旅行に制限がかかる昨今、全国の旬をご家庭で楽しんでみてはいかがでしょうか。ぜひ、この機会にお試しください。

2021年度企画（2021年4月からお届け）のご注文は、2021年1月末まで全国のJAで受け付けています。

※一部お取り扱いのないJAもございます。
旬鮮倶楽部のお問い合わせは全農生活担当部署までお願いします。

2021年度 東日本カタログ
2021年度 西日本カタログ

千葉県産秋冬野菜販売のプロモーションを展開

“バズレシピ”も募集中

千葉県本部は、千葉県と（公社）千葉県園芸協会とともに秋冬野菜の販売促進を進め、Webを活用したキャンペーンや県産野菜を使ったレシピを紹介しています。
【千葉県本部】

「野菜の王国ちば」を市場関係者にPRするため、11月20日に東京の大田市場で「千葉県秋冬野菜販売出陣式」を開催しました。主要7品目の野菜（ダイコン、ニンジン、キャベツ、ネギ、キュウリ、トマト、サツマイモ）を展示し、県の石家健生流通販売担当部長がビデオメッセージで「新しい生活様式」に対応した販売促進活動の展開を宣言しました。

また同日から、消費者参加型レシピ投稿キャンペーン「～おうちで食べよう～ちばは野菜の王国。」がスタート。千葉市出身の人気料理研究家・リュウジ氏を起用し、県産野菜を使った“バズレシピ”の紹介や時短レシピなどを募集しています。コンテスト上位者には千葉の特産品をプレゼントします。現在、県内と首都圏の量販店、県内の直売所などで「千葉県フェア」を開催中です。

詳しくはこちら

JA全農のインターネットショッピングモール
JAタウンショップ紹介

小さなYAMAGATAマルシェ（JA全農山形）

「酒田まめほの香」は、全国でも珍しい香りが付いたもち米です。山形県酒田市特産の「酒田女鶴（さかためづる）」と新潟県産の香り米「紅香（べにか）」を掛け合わせて誕生しました。きめ細かで滑らかな舌触りとコシの強さ、エダマメに似た独特の香りが特長です。

こちらの商品は「酒田まめほの香」を食べやすいサイズにした丸もちです。お雑煮はもちろん、ぜんざいやきな粉もち、おみそ汁にもお勧めです。

「酒田まめほの香」の魅力をぜひご堪能ください。

酒田まめほの香 丸もちセット（300g×6袋）……3200円（税込み）

ご注文はこちらから

▶ JAタウンはこちらから https://www.ja-town.com
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

発行／全国農業協同組合連合会 2020年（令和2年）12月21日発行（毎週月曜日発行）
第3343号 編集・発行人／広報・調査部 新妻成一
〒100－6832 東京都千代田区大手町1丁目3番1号JAビル TEL03（6271）8055

休刊のお知らせ
12月28日号は休刊いたします。
次は2021年1月1日号です。

私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋
になります。